

10月に行われた世界のウチナンチュ大会に参加できて本当に良かったと思う。今回の大会で特記すべきことは、次世代プロジェクトとして開催された若者国際会議だと思う。私もパネリストとして参加したWUB(ワールドワイド・ウチナンチュ・ビジネス・アソシエーション)会議、各

国県人会&ウチナー民間大使会議でも、各国代表者ら一同に若者の県人会離れ等の問題が報告された。

この他府県にはない沖縄独特の世界のウチナンチュネットワークをいかに若い世代へ継承していくのか。まさに



遠山 光一郎

論壇

今後の沖縄自立に直接関わる問題だと思う。

ワールドウチナーシンポジウムで「万国津梁基金」が提案された。県主導、オール沖縄体制で100億円基金をつくり、県内と海外の若者を双

広がるウチナー世界

SNSでネットワーク拡充

方向で交換留学させる構想で、実現すれば、多くのウチナンチュの若者にチャンスが訪れる。

しかし、シンポジウムでは若者から、県費留学制度を廃止してもいいのではというシヨッキングな意見も出た。こ

れまでの県費留学生が、沖縄のために働いていないという現実についての意見であり、もつと基金を有効に活用するべきだという意見だと受け止めた。チャンスが増えるのはいいが、どのように留学さ

せ、沖縄のためにどのくらい費用対効果を得られるかなど考えていく必要があると思う。フェイスブックやスカイプなどのように、無料でさまざまな交流ツールがあるこの時代ならなおさらである。

5年に1度の世界のウチナンチュ大会は、素晴らしい機会であるが、沖縄にいないからといってわれわれは離れ離れではない。今の時代、常にネットワークでつながっているのだ。もう、5年待つ意味はない。継続して沖縄のために話し合い、次回のウチナンチュ大会には何をするかを話し合うのではなく、何を一緒に行ってきたかの結果報告会にするべきである。行動あるのみである。

トワークが、点だけで文字通り点在し、ネットワークの基本である線と線をつなぐネットワークであり得なかつた。弱点さえあつた感がある。

この弱点をアドバンテージに後押しするのが、世界中で爆発的に広まっているフェイスブック、ツイッター、スカイプなどSNS(ソーシャルネットワーキングサービス)であろう。しかもスマートフォン

の登場で、いつでもどこでも可能になった。時代がウチナンチュネットワークに追い付いたというべきか。ウチナーネットワーク時代の到来である。(シンガポール在、会社経営、42歳)

この弱点をアドバンテージに後押しするのが、世界中で爆発的に広まっているフェイスブック、ツイッター、スカイプなどSNS(ソーシャルネットワーキングサービス)であろう。しかもスマートフォン